

田代池と湿地

田代池は、河童橋と大正池を結ぶハイキングコースのおよそ中間地点に位置する、上高地を代表する景勝地のひとつです。人によっては少し小さいと感じられるかもしれませんが、周囲の湿原の野生は印象に残るほど素晴らしく、谷間に生息する多くの鳥や花々を見ることができます。天気の良い日には、澄んだ水に六百山や霞沢岳が映ります。

この池の水源は、周囲の山で吸収された雨水が地下水として流れてきたものです。この水にはかなりの堆積物が含まれており、それが池に沈殿し、少しずつその規模を縮小しています。1915年には5メートルあった池の深さは、現在ではかなり浅くなっています。枯れて池の底に定着する水生植物も、田代池を単なる池から繁茂した湿地に変えるのに役立っています。

夏になると、池の周辺には珍しい植物がたくさん見られます。黄金色の花を咲かせるゼンテイカや、赤橙色のレンゲツツジなど探してみてください。

鳥類では、コマドリ、ルリビタキ、アカゲラ、キビタキなどが見られます。また、ニホンザルが斜面の上から降りてきて、登山道の植物を食べている姿もよく見られます。

また、秋には池の周りのカラマツの葉が黄金色に輝き、田代池はアマチュアやプロのカメラマンに人気のスポットとなります。紅葉の見頃は10月下旬頃です。冬になると、熱心な写真家たちが夜明けとともに雪道を歩き、太陽に照らされた霜の木々が水面に映り、まるで水晶の柱のように輝いている様子を撮影します。